令和８年９月８日（火）午後２時から

荏原第五区民集会所　第一集会室

# 令和８年度　第２回　品川区特別支援教育推進計画検討委員会

# 次 第

１．開　　会

２．議　　事

（１）検討委員会スケジュールについて

（２）第１回検討委員会の議事要旨について

（３）計画骨子案について

（４）当事者（児童・生徒、保護者）の意見聴取（案）について

３．その他質疑

４．閉　　会

【配布資料】

資料１　委員名簿

資料２　検討委員会スケジュール

資料３　第１回検討委員会議事要旨

資料４　計画骨子案

資料５　計画の理念と施策の体系

資料６　当事者（児童・生徒、保護者）の意見聴取方法・内容　（案）

資料７　アンケート調査項目一覧

# 品川区特別支援教育推進計画検討委員会　委員名簿

任期：令和８年６月２３日から教育長に結果報告をした日まで

◎…委員長　○…副委員長　　（順不同・敬称略）

| No. | 区　分 | 氏　名 | 職　名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学識経験者 | ◎ 山中（やまなか）　ともえ | 白百合女子大学人間総合学部初等教育学科　特別専任教授 |
| 2 | 学識経験者 | ○ 大関（おおぜき）　浩仁（ひろひと） | 十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科　教授 |
| 3 | 障害者団体の代表 | 佐藤（さとう）　直子（なおこ） | 品川区手をつなぐ育成会　会長 |
| 4 | 区内関係団体の代表者 | 平林（ひらばやし）　繁雄（しげお） | 品川区青少年対策地区委員会連合会　会長 |
| 5 | ＰＴＡの代表者 | 河内（こうち）　理（おさむ） | 品川区立小学校ＰＴＡ連合会　会長 |
| 6 | ＰＴＡの代表者 | 杉山（すぎやま）　錠士（じょうじ） | 品川区立中学校ＰＴＡ連合会　会長 |
| 7 | 特別支援学校長 | 西村（にしむら）　みゆき | 東京都立品川特別支援学校　校長 |
| 8 | 学校長 | 中郡（なかごおり）　裕帰（ゆき） | 中延小学校　校長 |
| 9 | 学校長 | 実松（さねまつ）　美智代（みちよ） | 大崎中学校　校長 |
| 10 | 学校長 | 倉次（くらなみ）　里絵（りえ） | 日野学園　統括副校長 |
| 11 | 教育次長 | 小林（こばやし）　徹（とおる） | 品川区教育委員会事務局　教育次長 |
| 12 | 区関係所管課長 | 染谷（そめや）　洋紀（ひろき） | 品川区子ども未来部　保育施設運営課長 |
| 13 | 区関係所管課長 | 石橋（いしばし）　美佳（みか） | 品川区福祉部　障害者施策推進課長 |
| 14 | 区関係所管課長 | 川村（かわむら）　岳（たけし） | 品川区健康推進部　品川保健センター所長 |
| - | 事務局 | 荒木（あらき）　孝太（こうた） | 品川区教育委員会事務局　学校施設担当課長 |
| - | 事務局 | 酒川（さかがわ）　敬史（たかふみ） | 品川区教育委員会事務局　指導課長 |
| - | 事務局 | 石井（いしい）　健太郎（けんたろう） | 品川区教育委員会事務局　学務課長 |
| - | 事務局 | 髙木（たかぎ）　圭一（けいいち） | 品川区教育委員会事務局　教育施策推進担当課長 |
| - | 事務局 | 保土澤（ほどさわ）　尚教（ひさのり） | 品川区教育委員会事務局　教育総合支援センター長 |
| - | 事務局 | 新井（あらい）　正康（まさやす） | 品川区教育委員会事務局　特別支援教育担当課長 |
| - | 事務局 | 石原（いしはら）　朋之（ともゆき） | 品川区教育委員会事務局教育総合支援センター　統括指導主事 |
| - | 事務局 | 西岡（にしおか）　裕香（ゆか） | 品川区教育委員会事務局教育総合支援センター　指導主事 |
| - | 事務局 | 椎木（しいき）　亮博（あきひろ） | 品川区教育委員会事務局教育総合支援センター　特別支援教育担当主査 |
| - | 事務局 | 宮城（みやぎ）　恵介（けいすけ） | 品川区教育委員会事務局教育総合支援センター　特別支援教育担当主査 |
| - | 事務局 | 栗田（くりた）　育美（いくみ） | 品川区教育委員会事務局教育総合支援センター　特別支援教育担当 |

資料２

# 品川区特別支援教育推進計画検討委員会　スケジュール

| 日　　程 | 概　　要 |
|---|---|
| 令和８年７月 | **第１回検討委員会**<br>日　時：令和８年７月３０日（木）１４：００～<br>場　所：中小企業センター３Ｆ大会議室<br>内　容：・委員紹介<br>・委員長の選出<br>・検討委員会スケジュールについて<br>・品川区特別支援教育推進計画について　ほか |
| ９月 | **第２回検討委員会**<br>日　時：令和８年９月８日（火）１４：００～<br>場　所：荏原第五区民集会所　第一集会室<br>内　容：・計画骨子案の提示<br>・計画骨子案に対する意見交換 |
| １１月 | **第３回検討委員会**<br>日　時：令和８年１１月９日（月）１０：００～<br>場　所：中小企業センター３Ｆ大会議<br>内　容：・計画素案の提示<br>・計画素案に対する意見交換 |
| １２月 | **パブリックコメントの実施** |
| 令和９年１月 | **第４回検討委員会**<br>日　時：令和９年１月１９日（火）１０：００～<br>場　所：荏原第五区民集会所　第一集会室<br>内　容：・パブリックコメントの結果について<br>・計画素案修正案の提示<br>・計画素案修正案に対する意見交換 |
| ３月 | **第５回検討委員会**<br>日　時：令和９年３月１８日（木）１４：００～<br>場　所：荏原第五区民集会所　第一集会室<br>内　容：・計画の決定について<br>・総括 |

資料３

# 議事要旨

| | | | |
|---|---|---|---|
| 件　　名 | 第１回品川区特別支援教育推進計画検討委員会 | | |
| 日　　時 | 令和８年７月30日(木)<br>14時00分～15時45分 | 場　　所 | 品川区立中小企業センター<br>3F 大会議室 |
| 出席委員 | 山中委員長(学識経験者)・大関副委員長(学識経験者)・<br>佐藤委員(障害者団体の代表者)・平林委員(区内関係団体の代表者)・<br>河内委員(PTAの代表者)・杉山委員(PTAの代表者)・中郡委員(学校長)・<br>実松委員(学校長)・倉次委員(学校長)・小林委員(教育次長)・<br>染谷委員(関係課長)・石橋委員(関係課長)・川村委員(関係課長) | | |
| 傍 聴 人 | 4名(7. 議事より傍聴) | | |
| 内　　容 | (非公開)<br>1. 開会<br>2. 教育長挨拶<br>3. 委員紹介<br>4. 委員長の選出・副委員長の指名<br>⇒委員の互選により、山中委員(学識経験者)が委員長に着任<br>委員長の指名により、大関委員(学識経験者)が副委員長に着任<br>5. 品川区特別支援教育推進計画検討委員会について<br>6. 品川区特別支援教育推進計画検討委員会会議公開基準の決定<br><br>(公開)<br>7. 議事　＊資料に沿って事務局より説明<br>(1)検討委員会スケジュールについて<br>(2)品川区特別支援教育推進計画について<br>①背景となる国・東京都の動向<br>②品川区特別支援教育推進計画策定の経緯<br>③区における特別支援教育の現状<br>④区の「特別支援教育のあり方」に対する基本的な考え方(案)<br>(3)品川区特別支援教育推進計画の計画構成(案)について<br>(4)当事者(児童・生徒、保護者)の意見聴取(案)<br>8. その他質疑<br>9. 閉会 | | |
| 主な意見等 | (1)検討委員会スケジュールについて<br>(　質疑なし　) | | |

| | |
|---|---|
| 主な意見等 | (2)品川区特別支援教育推進計画について<br>①背景となる国・東京都の動向<br>②品川区特別支援教育推進計画策定の経緯<br>③区における特別支援教育の現状<br>④区の「特別支援教育のあり方」に対する基本的な考え方(案)<br><br>○　特別支援学級が設置されている学校は限られていて、通学する学校が遠くなってしまうと保護者の負担が大きいため、通学のサポートを検討していただきたい。<br><br>○　全国からみれば東京都は色々な制度が整っていて、品川区としては色々進んできているが、まだ１００％ではないと思う。特別支援学級で学びたいお子さんがいた場合に、目の前の学校に行きたいが、そこに特別支援学級がないことで隣の学校に行かなければならない現実はある。ただ、子どもの数が増え続けている品川区の場合には、すぐに特別支援学級を開設できるかというと難しく、トータルで計画を立てていく必要がある。例えば10年後に出来上がるのであれば、その間のサービスも考えるべきで、今回策定する計画の中では、特別支援学級の設置計画とその間の代替案も考慮いただきたい。教員が６年で異動してしまうことや、校長の経営方針の中でどれだけ特別支援教育を中心に据えているかは学校により温度差があり、品川区として校長や教員が変わっても支援の質を確保できるようシステムを構築すべき。例えば、発達障害の子のサポートは民間の団体を活用する自治体が都内でも増えてきている。また、都立特別支援学校も受け入れ容量が逼迫していて、通常の学級でも多様なニーズを持つ子どもがいることが当たり前の状況である。充実した学級運営を実現するためには教員だけでは限界があり、サポーターとの役割をしっかりと線引きして、また、品川区は国より一歩先、10年先を見据えた計画を進めるべき。<br><br>○　特別支援教育は、その子の状況に応じて合理的配慮を求めていくものであるが、それと同時にインクルーシブな教育を求めていきたいと思っている。今、教育は分断してきているように思えるので、品川区としてインクルーシブ教育をどのように捉え、どのように推進していくかをこの委員会で話していきたい。<br><br>（この他、就学相談の実施状況、実施体制等の現行の事業に関する質疑あり。） |

| | |
|---|---|
| 主な意見等 | (3)品川区特別支援教育推進計画の計画構成(案)について<br><br>○　この計画は、今後の品川区の特別支援教育の指針となる位置づけであり、支援体制の充実は学校として必要であるが、教員や特別支援教育コーディネーターの研修・養成のように教員への丸投げで終わらせてしまうと、働き方改革で難しい部分があり頓挫してしまう。学校経営支援も含めて進めていく必要があり、校長先生の意見を聴きながら進めると中身のある計画になると思う。<br><br>○　学校としては人的配置が欲しいと思っている。品川区として特別支援教育を推進していくのであれば、例えば、特別支援学級などに区独自の固有教員を配置していく方法もあると思う。都の配置基準では児童・生徒の人数に応じて教員数が決まるため、現場ではどうも足りていないことを感じていて、人的支援として区の固有教員の配置があるとありがたい。<br><br>○　特別支援学級における教員の配置基準（学級編成基準）について、児童・生徒数に応じて教員が 8 対 1 で配置されるという話があったが、支援が必要な子たちにとっては 8 対 1 では足りないと思う。<br><br>○　本校でも、品川区の固有教員を特別支援学級にプラスで配置していただいて、とても助かっている。4 月のスタートでは配置基準に収まっていても、年度途中で通常学級から特別支援学級への転学などの受け入れがあり、基準を超えてくる。転学は通常の学級で頑張ってきた経緯があり、児童と保護者の特別支援学級で学びたいという思いから学校としても体制を整えて受け入れたいが、その時に区の固有教員が配置されていることで、学校内での柔軟な運用が可能となりありがたいと思っている。また、資料の数字で見た児童・生徒数の推移やニーズの高まりには驚きがあり、本校も教室が足りなくなっていて、先を見据えた受け入れ体制の整備などこの計画で示しいただきたい。<br><br>○　すでに特別支援学級がある本校でも、住宅の建設などが進む地域であることから、転学だけでなく引っ越しによる転入によって、教室の拡充などのきめ細やかな対応が必要となってきている。教育委員会に相談すれば迅速な措置は取られるものの、校舎内ではこれ以上どのスペースを転用・拡充すればよいのかという問題がある。改築校へ学級を新設することに加え、すでに特別支援学級が設置されている学校の見直しについても、計画の中で検討していただきたい。 |

| | |
|---|---|
| 主な意見等 | ○　１校あたりの特別支援学級数は３学級が理想であり、４学級以上の規模が大きくなり過ぎている学校については、本来であれば近隣の未設置校に新設・分散されるべきである。国は「多様性の包摂」という方向で色々な仕組みを見直して、令和９年３月の学習指導要領改定の中では、ある程度自治体或いは学校の裁量が認められるようになる。人的支援を充実させるだけではすぐに「特別支援学級へ」という流れになり、通常の学級からの排除になってしまう。通常の学級で学べるお子さんは、通常の学級で学びながら必要な部分をどうやっていくかという時代になっている。そんな中、中央教育審議会で検討してきたことは、通級のあり方について、自立活動を行って必要に応じて教科もやっていいという柔軟性が出てきている。ただ歯止めがないと、逆に排除が進んでしまうため、特に必要な場合と教員の持ち時数が増えないように修正されると考えられる。少し軽度な知的と発達障害を併せ持っている子は少なくなく、品川区は、通常の学級で困り感があって不適応から不登校にならないよう、全校にある特別支援教室でどれだけ必要な内容をフォローできるか。都の教員だけでは足りない。品川区は自治体の工夫として、例えば、各校に特別支援教育を担う区固有教員を１名配置するような大胆な計画を示してはどうか。これに加えて、制度として学校長に対してコンサルテーションまでしていただき、通常の学級でも色んなお子さんがいることを教員が意識するよう、校内研修会任せにするのではなく、区が主導して全校をコントロールしていく仕組みを導入していく時期ではないか。他区の良い事例も見ながら、品川区のあり方を考えていただきたい。<br><br>○　品川区全体の計画なので、都立特別支援学校に通っている品川区民もいるという視点を持っていただきたい。また、5歳児健診が始まるということで、切れ目のない支援体制を考えると就学前と就学後の繋がりが関係してくるため、5歳児健診を実施する保健部門や放課後等デイサービスを利用しているお子さんもいることから、学校でない関係機関との連携の視点が計画に入ると良い。品川区の計画となるとどうしても学校の環境整備などに目が行きがちだが、特別支援学校の「センター的機能」を積極的に活用するなど、視野を広げて地域で使えるリソースとの連携を図っていくべき。さらに、個別の指導計画や個別の支援計画をずっとつなげていくことは大切なことで、学校だけで取り組むことがないよう計画に入れていただきたい。インクルーシブ教育については、通常の学級の子どもたちや保護者、地域の方々が障害を理解する取組を入れていくことは大事な視点であると思う。障害者理解や障害理解とはよく言われるが、体系的・継続的に実施しているところは多くなく、とても大事な視点である。<br><br>（この他、特別支援教育推進計画の法令上の位置付け等に関する質疑あり。） |

| | |
|---|---|
| 主な意見等 | (4)当事者(児童・生徒、保護者)の意見聴取(案)<br><br>○　対象者について、ぜひ区内に在住している特別支援学校の方にも意見聴取をお願いしたい。<br><br>○　小学校1年生であれば保護者と一緒に回答することが効率的だが、中学3年生だと「親に知られたくない」と感じるのが自然であるため、配慮や工夫を検討してほしい。また、インクルーシブな視点から通常の学級に通う子どもたちがどう思っているか、特別な配慮が必要な子どもたちについてどう思っているかを把握していただきたい。特別支援学級の設置校などで実施できないか検討してほしい。<br><br>○　通常学級・特別支援学級・特別支援学校など、児童・生徒がどこに在籍しているかによって、学校生活の関わり方などが大きく異なる。全員に同じアンケートを配ると非常に回答しづらくなるため、在籍区分に応じた設問や聞き方を用意する必要がある。実施時期が一学期と三学期でも回答内容が変わると思う。また、WEBフォーム（Forms等）で文字を選ぶだけではなく、ICT端末（タブレット等）の活用、授業時間内での協力・実施などの工夫をすると良い。<br><br>○　保護者の意見聴取について、地域の放課後等デイサービスなどとの連携についてどう思っているか聞きたい。就学前も就学後も関係機関の連携が大切であると感じている。特別支援学級が設置されている学校では、通常の学級の保護者からも意見を聴くべき。<br><br>(5)その他質疑<br>（　質疑なし　） |
| そ の 他 | 次回会議日程を確認（9月8日14時から荏原第五公民集会所集会室） |

# 品川区特別支援教育推進計画　骨子案

～品川区版　学びの羅針盤～

資料４

## 1　計画の基本的な考え方

1.1　計画策定の趣旨

1.2　計画策定の目的

1.3　計画の位置づけ

1.4　計画の期間

1.5　計画の対象

1.6　計画の進め方

1.7　計画とＳＤＧｓ

## 2　特別支援教育における国や東京都の動向と品川区の現状

2.1　特別支援教育における国や都の動向

2.2　品川区の特別支援教育における現状

## 3　計画の基本理念と施策の体系

3.1　計画の理念

3.2　施策の体系

## 4　取組の方向・具体的な取組内容

### 4.1　多様な児童・生徒が共に学ぶための基礎的環境整備　～場と組織～

#### 4.1.1　支援体制の充実

＜学校内の体制づくりと充実＞

＜合理的配慮の提供と理解・促進＞

＜相談機能の充実＞

#### 4.1.2　学びの場の環境整備

＜学級におけるユニバーサルデザイン化の推進＞

＜学校ICT環境の整備と充実＞

＜特別支援学校等の環境整備＞

#### 4.1.3　切れ目のない支援体制の充実

＜就学前からの早期連携＞

＜就学後の引継ぎ体制の充実＞

4.2 一人一人の教育的ニーズに対応した指導・支援の充実 ～指導と支援～
4.2.1 指導・支援内容の充実
＜通常の学級・園における特別な支援を要する幼児・児童・生徒への指導力向上＞
＜特別支援学級等における指導・支援の充実＞
4.2.2 きめ細やかな支援の充実
＜きめ細やかな支援の充実＞
4.2.3 専門家による支援
＜専門家による支援＞
4.3 共生社会に向けたインクルージョンの推進 ～意識とつながり～
4.3.1 心のバリアフリーを軸とした教育におけるインクルージョンの推進
＜教職員への理解・啓発＞
＜幼児・児童・生徒への理解・啓発＞
＜保護者・地域への理解・啓発＞
＜交流及び共同学習の充実＞
＜特別支援学校に在籍する児童・生徒の副籍制度に基づく交流活動の充実＞
4.3.2 自立と社会参加を見据えた教育の推進
＜レジリエンス育成のための教育の充実＞
＜キャリア教育の充実＞
5 参考資料
5.1 品川区特別支援教育推進計画策定に係る検討過程
5.1.1 品川区特別支援教育推進計画検討委員会設置要綱
5.1.2 特別支援教育推進計画検討委員会 委員等名簿
5.1.3 会議開催等の状況
5.2 用語解説

## 取組の方向・具体的な取組内容

| 柱 | 推進施策 | 推進事業 | 具体的な取組 |
|---|---|---|---|
| 1 多様な児童・生徒が共に学ぶための基礎的環境整備 ～場と組織～ | 支援体制の充実 | 学校内の体制づくりと充実 | ●校(園)内委員会運営方法等の情報提供　●特別支援教育推進の中核となる教員（コーディネーター）の養成<br>●特別支援学校のセンター的機能を活用した研修の実施　●校内体制に関する指導主事およびアドバイザーによる指導・助言 |
| | | 合理的配慮の提供と理解・促進 | ●合理的配慮の合意形成のための対話シートの活用　●合理的配慮に関するQandA集の活用　●e-ラーニングによる理解・啓発<br>●指導主事およびアドバイザーによる指導・助言　●特別支援教育コーディネーター連絡会における研修の実施 |
| | | 相談機能の充実 | ●スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用　●教育相談窓口の設置 |
| | 学びの場の環境整備 | 学級におけるユニバーサルデザイン化の推進 | ●初任者を対象とした研修の実施　●特別支援教育コーディネーターを対象とした研修の実施　●指導主事およびアドバイザーによる指導・助言 |
| | | 学校ICT環境の整備と充実 | ●ICT機器の活用（デジタル教科書・デジタル教材の活用）　●音声教科書の活用・普及啓発　●電子黒板の活用 |
| | | 特別支援学級等の環境整備 | ●既存の特別支援学級/特別支援教室/難聴・言語通級指導学級の環境・人的整備　●特別支援学級中核教員の認定（都事業）の活用<br>●知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級の新設 |
| | 切れ目のない支援体制の充実 | 就学前からの早期連携 | ●就学相談の充実　●就学相談のしおりの配布　●就学支援シートの活用 |
| | | 就学後の引継ぎ体制の充実 | ●転学相談の充実　●学校生活支援シートおよび個別指導計画の引継ぎの実施 |
| 2 一人一人の教育的ニーズに対応した指導・支援の充実 ～指導と支援～ | 指導・支援内容の充実 | 通常の学級・園における特別な支援を要する幼児・児童・生徒への指導力向上 | ●管理職・教職員を対象とした研修（初任者研修を含む）の実施　●ICT機器の活用（デジタル教科書・デジタル教材の活用）　●心理検査の活用<br>●e-ラーニングによる読み書きに困難さのある児童・生徒への気づきのためのアセスメントに関する理解・啓発<br>●特別支援学校のセンター的機能を活用した研修の実施 |
| | | 特別支援学級等における指導・支援の充実 | ●e-ラーニングによる読み書きに困難さのある児童・生徒への気づきのためのアセスメントに関する理解・啓発<br>●ICT機器の活用（デジタル教科書・デジタル教材の活用）　●難聴・言語通級指導学級教員を対象とした専門性向上研修の実施<br>●特別支援教室訪問指導教員・専門員を対象とした専門性向上研修の実施　●特別支援学級教員を対象とした専門性向上研修の実施<br>●特別支援学校のセンター的機能を活用した研修の実施　●特別支援教室訪問指導教員連絡会における自立活動に関する研修の実施<br>●特別支援学級担任連絡会における自立活動に関する研修の実施　●自立活動に関する指導主事およびアドバイザーによる指導・助言 |
| | きめ細やかな支援の充実 | きめ細やかな支援の充実 | ●学習支援員・学校生活支援員の配置　●発達障害教育支援員の配置　●医療的ケア看護師の配置<br>●発達障害教育支援員を対象とした専門性向上研修の実施 |
| | 専門家による支援 | 専門家による支援 | ●巡回相談員による支援　●専門家による訪問相談（通常の学級/特別支援学級対象）　●専門家診断（特別支援学級/特別支援教室/難聴・言語通級指導学級対象） |
| 3 共生社会に向けたインクルージョンの推進 ～意識とつながり～ | 心のバリアフリーを軸とした教育におけるインクルージョンの推進 | 教職員への理解・啓発 | ●管理職・教職員を対象とした障害者理解のための研修（初任者研修を含む）の実施　●ブラインドサッカー体験教室の実施<br>●特別支援学校のセンター的機能を活用した研修の実施　●人権同和教育研修会における障害者理解のための啓発　●人権同和教育推進委員会の設置<br>●人権尊重教育推進校の取組事例共有 |
| | | 幼児・児童・生徒への理解・啓発 | ●心のバリアフリーノートの活用　●パラリンピック・デフリンピック教材の活用　●しながわ多様性理解・多文化共生推進事業におけるパラスポーツや手話体験等の実施<br>●ブラインドサッカー体験教室の実施　●特別支援学校のセンター的機能を活用した出前授業の実施 |
| | | 保護者・地域への理解・啓発 | ●冊子「品川区の特別支援教育」の作成　●区報やホームページ等による理解・啓発 |
| | | 交流及び共同学習の充実 | ●指導主事およびアドバイザーによる指導・助言　●特別支援教育コーディネーターを対象とした研修の実施　●特別支援学級教員を対象とした研修の実施<br>●交流及び共同学習の運用方法等の情報共有　●特別支援学級担任連絡会における情報共有 |
| | | 特別支援学校に在籍する児童・生徒の副籍制度に基づく交流活動の充実 | ●特別支援教育コーディネーター連絡会における副籍交流に関する説明会の実施　●特別支援学校のセンター的機能を活用した出前授業の実施<br>●特別支援学級連合行事における特別支援学校との交流活動の実施 |
| | 自立と社会参加を見据えた教育の推進 | レジリエンス育成のための教育の充実 | ●自立活動におけるメタ認知の向上、自己・他者理解およびソーシャルスキルの定着を促す研修の実施と情報提供 |
| | | キャリア教育の充実 | ●進路指導主任会等での多様な進路選択に関する情報提供　●自立活動におけるセルフアドボカシースキルの習得に関する研修の実施と情報提供 |

資料５

# 計画の理念と施策の体系

計画の理念は、これまでの品川区全体の特別支援体制の方向性を踏まえつつ、品川区教育振興基本計画・品川区教育ビジョンを踏襲したものとする。

**品川区教育ビジョン**

関連する基本的な柱

**柱２「誰一人取り残さないきめ細やかな教育」**
**方針７「ダイバーシティ＆インクルージョンに根差した教育」**

柱１「一人ひとりの資質・能力を育成する教育」方針３「豊かな心・健やかな体の育成」 など

**品川区が考えるインクルーシブ教育　～全ての子どもに、多様で柔軟な学びと、つながる機会を～**

一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様で柔軟な学びの場を整え、子どもと保護者の意向を尊重して学びの場を検討・決定します。そして、子ども同士が交流し、互いに学び合う機会を大切にすることで、相互理解を促し、豊かな人間性や自立と社会参加の基礎を育み、共生社会の実現を目指します。

全ての子どもたちが互いを認め合い、一人ひとりの能力と可能性を最大限に伸ばすことができ、また、自分らしさを存分に発揮しながら共生社会を担うことができるよう、**３つの柱**で特別支援教育を推進する。

1

**多様な児童・生徒が共に学ぶための基礎的環境整備**

～場と組織～

2

**一人一人の教育的ニーズに対応した指導・支援の充実**

～指導と支援～

3

**共生社会に向けたインクルージョンの推進**

～意識とつながり～

# 当事者（児童・生徒、保護者）の意見聴取方法・内容 （案）

**【目　　的】**

品川区の特別支援教育に関する満足度やニーズを的確に把握し、今後の計画策定や施策の推進の基礎資料とする。

**【実施方法】**

アンケート調査（オンライン含む） WEBアンケートフォームにより回答

＊希望により紙の調査票の提出も可とする。

**【期　　間】**

令和8年9月中旬～11月下旬の間に実施予定

**【対　　象】**

①区内在住で特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者

②区立小・中・義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒および保護者

③区立小・中・義務教育学校の特別支援教室・通級指導学級に在籍する児童・生徒および保護者

④通常の学級の児童・生徒および保護者

下記 1～3 の学校に区分し、小学校・義務教育学校前期課程においては第 5 学年、中学校・義務教育学校後期課程においては第 8 学年を対象とする。

1　知的障害特別支援学級設置校

2　自閉症・情緒障害特別支援学級設置校

＊アンケート調査を効率的に実施するため、対象のうち母数が大きいものについては、一部抽出した調査の実施を検討する。

**【アンケート項目】**

別紙「アンケート調査項目一覧」のとおり

# 品川区の特別支援教育に関するアンケート調査　調査項目一覧

資料７

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総設問数 | 8 | 36<br>共通2<br>児童・生徒9<br>保護者25 | 37<br>共通1<br>児童・生徒9<br>保護者27 | 17 | 13 | | |

| No. | 設問 | 回答選択 | 特別支援学校<br>保護者 | 特別支援学級<br>児童・生徒、保護者 | 特別支援教室・通級指導学級<br>児童・生徒、保護者 | 通常の学級<br>保護者 | 通常の学級<br>児童・生徒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q1 | お子さんが在籍している学年を教えてください。<br>【児童・生徒】あなたの学年を教えてください。 | 小学１年生～中学３年生 | ● | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | ● | ● |
| Q2 | お子さんが在籍している学級、または指導を受けている教室・学級をお答えください。 | 1．知的障害特別支援学級<br>2．自閉症・情緒障害特別支援学級<br>3．特別支援教室<br>4．難聴・言語通級指導学級（きこえの教室・ことばの教室） | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q3 | お子さんが、特別支援学級／特別支援教室／難聴・言語通級指導学級で指導を受けていることで、良かったと感じているところは何ですか。 | 1．お子さんが自信をもって、楽しく学校に行くようになった<br>2．お子さんの特性にあった指導を受け、成長している<br>3．将来の進路に向けて、準備をすることができる<br>4．その他（　　）<br>5．特にない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q4 | 特別支援学級／特別支援教室／難聴・言語通級指導学級（きこえの教室・ことばの教室）について、どの程度満足していますか。（それぞれについて１つ選ぶ）<br><br>①お子さんへの個別の指導<br>②小集団（グループ）での指導<br>③お子さんの成長が見られるようになった<br>④教員が指導内容を具体的に教えてくれたり、家庭でできることを教えてくれる<br>⑤【教室・通級】担任の先生に支援内容を伝えてくれる | 1．満足している<br>2．どちらかといえば満足している<br>3．どちらかといえば満足していない<br>4．満足していない<br>5．知らない・わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q5 | 品川区教育委員会の特別支援教育の推進や充実に向けた取組について、どの程度満足していますか。（それぞれについて１つ選ぶ）<br><br>①特別支援学級の設置数や指導内容<br>②教員の障害理解に関する専門性<br>③支援員（学校生活支援員・学習支援員など）の配置<br>④特別支援教室の指導時間数や指導内容<br>⑤就学・転学相談での説明<br>⑥小学校と中学校間での情報共有や連携<br>※特別支援学校は①②のみ | 1．満足している<br>2．どちらかといえば満足している<br>3．どちらかといえば満足していない<br>4．満足していない<br>5．知らない・わからない | ● | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q6 | 品川区立学校において行われている副籍交流の取組内容について知っていますか。（１つ選ぶ） | 1．知っている<br>2．どちらかといえば知っている<br>3．どちらかといえば知らない<br>4．知らない | ● | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | ● | |

| No. | 設問 | 回答選択 | 特別支援学校<br>保護者 | 特別支援学級<br>児童・生徒、保護者 | 特別支援教室・<br>通級指導学級<br>児童・生徒、保護者 | 通常の学級<br>保護者 | 通常の学級<br>児童・生徒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q7 | 【児童・生徒】副籍交流とはどのようなものか知っていますか。（１つ選ぶ） | 1．知っている<br>2．どちらかといえば知っている<br>3．どちらかといえば知らない<br>4．知らない | | ● 保護者 | ● 保護者 | | ● |
| Q8 | 品川区立学校で実施する副籍交流を通して、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育んだり、学習の理解が深まったりしていると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | ● | | ● 保護者 | ● | |
| Q9 | 学校において行われている副籍交流を通じて、お子さんの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | | ● 保護者 | ● | |
| Q10 | 障害のある子どもとない子どもが同じ教室で学ぶために必要だと思うことは何だと思いますか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．様々な学ぶ機会を設ける<br>2．実際に障害のある方との交流を充実させる<br>3．環境整備（安全な教室づくり など）<br>4．支援の充実（大人の見守り など）<br>5．その他（　　）<br>6．特にない<br>7．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | ● |
| Q11 | 学校において行われている交流及び共同学習の取組内容について知っていますか。（１つ選ぶ） | 1．知っている<br>2．どちらかといえば知っている<br>3．どちらかといえば知らない<br>4．知らない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |
| Q12 | 【保護者】交流及び共同学習の実施に際し、意向の確認や合意形成は十分になされていると思いますか。<br><br>【児童・生徒】交流及び共同学習に参加するかどうかを決めるとき、自分の気持ちや意向を大切にしてもらっていると思いますか。 | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ● 共通 | | | |
| Q13 | 交流及び共同学習を通して、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育んだり、学習の理解が深まったりしていると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない（交流及び共同学習を実施していない） | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |
| Q14 | 【児童・生徒】交流及び共同学習を通じて、お互いを知ることができたと思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |

| No. | 設問 | 回答選択 | 特別支援学校<br>保護者 | 特別支援学級<br>児童・生徒、保護者 | 特別支援教室・<br>通級指導学級<br>児童・生徒、保護者 | 通常の学級<br>保護者 | 通常の学級<br>児童・生徒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q15 | 学校において行われている交流及び共同学習を通じて、学校全体におけるこどもたちの特別支援教育や障害に対する理解が深まったと思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | ● | |
| Q16 | 【特別支援学級の児童・生徒】交流学級の子どもと一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていることは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ）<br><br>【通常の学級の児童・生徒】特別支援学級の子どもと一緒に学習や交流をした中で、印象に残っていることは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．教科の授業での交流<br>2．運動会や音楽会での交流<br>3．移動教室や修学旅行での交流<br>4．校外学習や遠足での交流<br>5．給食での交流<br>6．学校訪問での交流<br>7．その他（　　）<br>8．特にない<br>9．わからない | | ●<br>児童・生徒 | ●<br>児童・生徒 | | ● |
| Q17 | 「学校生活支援シート(※)」が進学先や学年が上がった際に適切に引き継がれていると感じますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q18 | 「学校生活支援シート」において、学校以外の機関(※)からの情報共有が行われている（反映されている）と思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q19 | 「個別指導計画(※)」はお子さんの実態が適切に反映されていると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q20 | 「個別指導計画(※)」に基づいた指導や支援が行われていると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |
| Q21 | 「学校生活支援シート」や「個別指導計画」の作成や活用について、保護者と学校との間で十分に情報共有できていると思いますか。（それぞれについて１つ選ぶ）<br><br>①「学校生活支援シート」<br>②「個別指導計画」 | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | | |

| No. | 設問 | 回答選択 | 特別支援学校<br>保護者 | 特別支援学級<br>児童・生徒、保護者 | 特別支援教室・<br>通級指導学級<br>児童・生徒、保護者 | 通常の学級<br>保護者 | 通常の学級<br>児童・生徒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q22 | 「就学支援シート(※)」が活用されたと思いますか。（１つ選ぶ）（小学校の保護者の方のみご回答ください） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．「就学支援シート」を小学校へ提出していない<br>6．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | | |
| Q23 | 読み書きに困難のある児童・生徒に対する指導が充実していると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |
| Q24 | 【児童・生徒】読んだり、書いたりすることが難しいと感じることがありますか。（１つ選ぶ） | 1．いつも難しいと感じる<br>2．ときどき難しいと感じる<br>3．あまり難しいと感じることはない<br>4．難しいと感じることはない<br>5．わからない | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |
| Q25 | 【児童・生徒】前問で「１．いつも難しいと感じる」または「２．ときどき難しいと感じる」を選んだ方にお聞きします。（それ以外の方は、次の質問にお進みください。）<br>読んだり、書いたりすることができるように、先生はあなたに合った方法で教えてくれますか。（１つ選ぶ） | 1．教えてくれる<br>2．教えてくれない | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |
| Q26 | 【児童・生徒】あなた自身のことで、学校で学習や生活をする上で先生に特に気にしてほしいことがありますか。（１つ選ぶ）<br>例）書くことが苦手で時間がかかってしまうので、書き写しが授業時間中に終わらない　など | 1．ある<br>2．ない | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |
| Q27 | 【児童・生徒】前問で「１．ある」を選んだ方にお聞きします。（それ以外の方は、次の質問にお進みください。）<br>そのことに対して、先生は助けてくれていますか。（１つ選ぶ） | 1．助けてくれる（具体的に：　　）<br>2．助けてくれない | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |
| Q28 | 合理的配慮(※)に関する設問を検討中 | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |
| Q29 | ICT機器（学習者用端末や電子黒板など）を活用した授業や学習支援が充実していると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |

| No. | 設問 | 回答選択 | 特別支援学校<br>保護者 | 特別支援学級<br>児童・生徒、保護者 | 特別支援教室・<br>通級指導学級<br>児童・生徒、保護者 | 通常の学級<br>保護者 | 通常の学級<br>児童・生徒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q30 | 【児童・生徒】ICT機器（学習者用端末や電子黒板など）を使った授業はわかりやすいと思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |
| Q31 | 学校以外で、お子さんの居場所となっている場所はありますか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．自宅<br>2．祖父母・親戚宅<br>3．こどもの友人宅<br>4．すまいるスクール<br>5．放課後等デイサービス<br>6．児童センターや図書館などの施設<br>7．塾や習い事の教室<br>8．公園や自然の中で遊べる場所<br>9．オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）<br>10．その他（　　）<br>11．わからない | ● | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |
| Q32 | 【児童・生徒】放課後、自宅以外にどのような場所で過ごしていますか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．祖父母・親戚の家<br>2．友達の家<br>3．すまいるスクール<br>4．放課後等デイサービス<br>5．児童センターや図書館などの施設<br>6．塾や習い事の教室<br>7．公園や自然の中で遊べる場所<br>8．オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）<br>9．その他（　　） | | ● 児童・生徒 | ● 児童・生徒 | | ● |
| Q33 | 学校と関係機関（すまいるスクール、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）との情報共有ができていると思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |
| Q34 | 学校と関係機関（すまいるスクール、医療機関、放課後等デイサービス、幼稚園、保育園など）で共有すべきだと思うことは何ですか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．学校生活支援シート<br>2．就学支援シート<br>3．日々の出来事やその対応方法など<br>4．その他（　　）<br>5．特にない<br>6．わからない | | ● 保護者 | ● 保護者 | ● | |

| No. | 設問 | 回答選択 | 特別支援学校<br>保護者 | 特別支援学級<br>児童・生徒、保護者 | 特別支援教室・<br>通級指導学級<br>児童・生徒、保護者 | 通常の学級<br>保護者 | 通常の学級<br>児童・生徒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q35 | お子さんのことで困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．家族<br>2．友人や知人<br>3．学校の先生<br>4．スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー<br>5．かかりつけの医師<br>6．児童発達支援センター<br>7．子ども家庭支援センター<br>8．すまいるスクールの先生<br>9．放課後等デイサービスの先生<br>10．塾や習い事の先生<br>11．インターネットやSNSのサイト<br>12．その他（　　）<br>13．相談したいと思う人がいない<br>14．誰かに相談しようと思わない | ● | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | ● | |
| Q36 | 【児童・生徒】学校で困っていることや悩んでいることがあるとき、誰に相談しますか。（あてはまるものすべて選ぶ） | 1．家族<br>2．友達<br>3．学校の先生<br>4．スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー<br>5．すまいるスクールの先生<br>6．放課後等デイサービスの先生<br>7．塾や習い事の先生<br>8．インターネットやSNSのサイト<br>9．その他（　　）<br>10．相談したいと思う人がいない<br>11．誰かに相談しようと思わない | | ●<br>児童・生徒 | ●<br>児童・生徒 | | ● |
| Q37 | 保護者の相談先は十分だと思いますか。（１つ選ぶ） | 1．そう思う<br>2．どちらかといえばそう思う<br>3．どちらかといえばそう思わない<br>4．そう思わない<br>5．わからない | ● | ●<br>保護者 | ●<br>保護者 | ● | |
| Q38 | 品川区の特別支援教育に関して、ご意見などがあればご記入ください。（自由記述） | 自由記述 | ● | ●<br>共通 | ●<br>共通 | ● | ● |